

以上相模湾の季節変化について、昭和33～45年の水温・塩分の平均値から概略を検討したが資料数が十分でないことおよび各月同数でないこと等から平均値に問題があるが、平年型に近い状態を表わしていると考えらる。

今後はこれらの結果を基に相模湾の海域特性、各月の変動スケールについて調べる予定である。

参 考 文 献

- (1) 平野敏行, 1970: 河川取水に伴う沿岸漁業調査報告書, 神奈川県.
- (2) 上原 進, 1971: 河川取水に伴う沿岸漁業調査報告書, 神奈川県.
- (3) 岡部勝, 大林恒四郎, 岩田静夫, 池田文雄, 1971: 沿岸海洋調査報告書, 神水試相模湾支所報告書.
- (4) 岡部勝・木幡孜, 1971: 相模湾奥部の海況, 神水試相模湾支所報告書.

5. 日平均水面の変動からみた相模灘への黒潮分枝流の流入について

大 塚 一 志 (東京水産大学)

本誌1-12ページに詳細に報告されているので、ここでは省略する。

附 特別報告 異常潮位に関する情報交換

上 原 進 (東海区水産研究所)

9月3日前後から日本南岸では各地で異常潮位が観測され、随所に浸水騒ぎを起すなどの被害を生じ、大きな社会問題となった。

本研究会がもたれたのは、まだ異常潮位現象がおさまらず、これの原因が学会で種々検討されている時であったが、この重要性をかんがえ、研究発表に入る前にこの問題についての話し合いをもつ時間をとり(約1時間半)、各県からこれに関する情報を報告していただくとともに、本研究会として異常潮位に関し考えられる諸要因を次のようにまとめ、参加者にコピーして配布した。

異常潮位について(水産海洋研究会における情報交換の集約)

昭和46.9.7

海況: 7月下旬から後、黒潮は日本列島に接岸して流れ、御前崎南70マイルから石廊崎南45マイル

ルを東北東に直進し、伊豆列島では三宅島、御蔵島付近を通っている。特に冷水塊の存在は認められない。このために、7月以前には、東海沖で2~3℃低めの水温で経過したが、その後回復している。

8月下旬から9月初旬にかけて、台風23号が、九州から太平洋岸を東海沖へと抜けて行った。これらのことから異常潮位について、次のような意見があった。

- ① 黒潮の接岸
- ② 台風の発達段階で、九州に上陸するまでに黒潮からエネルギーを多大に奪い、流速が小さくなり、海面傾斜が少なくなった。
- ③ 降雨によって、陸水が黒潮の内側域にたまった。
- ④ 台風通過によって起った強い南風が続き、黒潮内側にたまった水を陸側におしつけた。
- ⑤ 上の現象の起ったのが、大潮時であった。

これらの考えられる諸原因が重なりあって、今回の異常潮位が起ったのであろう。

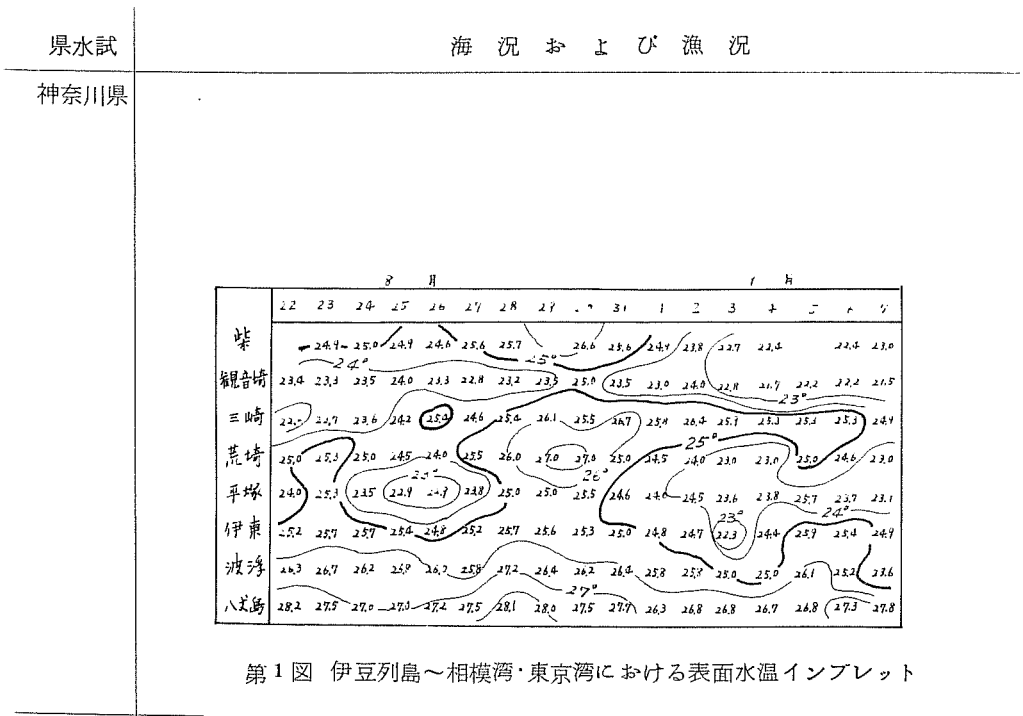
漁況：異常潮位と漁況の関係はとくに報告されていないが、黒潮が接岸したことによって、地域的に漁況の変化があり、台風通過との関係で漁況の変化が報告された。特に暖水系のソーダガツオ、カツオの類が沿岸に接近したことが認められる。

各県から出た報告によると下の表のようである。

	海 況	漁 況
千葉県	千倉で9月1、2、3、4日の水温は、24~25℃台、9月6日には19℃台に降下。	いか漁は時化のため、出漁せず。
東京都	8月23日頃から、透明度がよくなった。	7月~8月上旬にタカベの漁獲があったが8月下旬から漁獲は激減した。
神奈川県	小田原周辺の25m層水温は8月31日~9月4日までは25℃前後、5日夕方より23℃~20℃台に下った。9月4日は小田原から大磯に向う東向きの流れがあった。	8月24日~25日にソーダガツオが漁獲された。 定置水温 9/1 9/2 9/3 9/4 平塚 24.0 24.0 23.6 22.9 観音崎 23.0 24.0 22.8 21.7 大島 25.8 25.8 25.0 25.0
静岡県	7月~8月初旬までは2~3℃低めであったが、8月中旬から1℃前後高めめの水温になっている。 また、シラスと同様、遠州灘のスルメイカは漁獲なし。	ソーダガツオの漁場は、7月下旬から駿河湾奥にも形成された。台風23号以前、シラスは浜名湖、駿河湾内で漁獲されていたが、台風後は1/20~1/30に減少した。

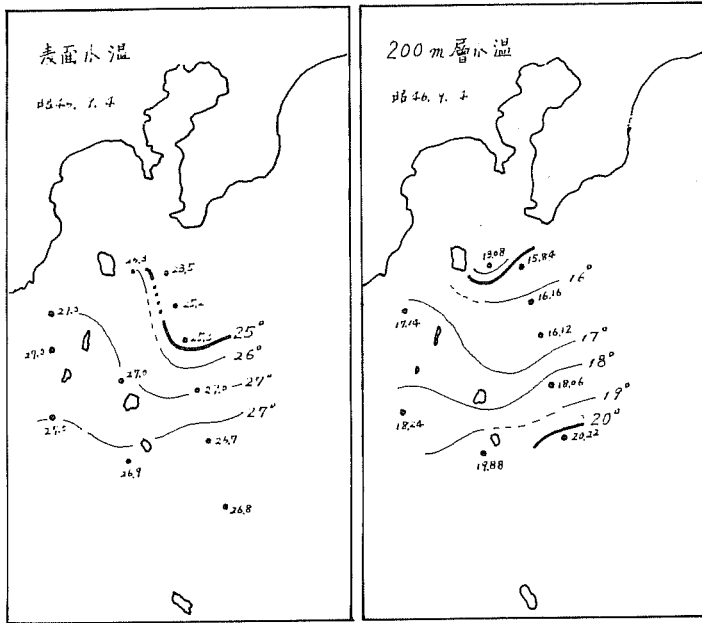
	満潮、干潮は推算潮位より、いずれも30～50cm高目であった(9月上旬)。	
愛知県	三河湾全体で潮位は上がった。水色は特に変わらず。	
三重県	伊勢湾では潮は50cm程度上った。九鬼では、台風前東向きの流れであったが、9月6日には西向きの流れになった。	8月下旬にマイワシの漁獲が湾内であったが、台風後、漁獲なし。 尾鷲ではカツオが5トン程度 浜島では、台風前、カツオ、シイラ漁場は距岸20～30マイルであったが、台風後5～10マイルになった。 九鬼では台風後、アジが漁獲されている。

その後各地の情報が入ったので、参考までに以下に記す(図表の多くは省略した)。

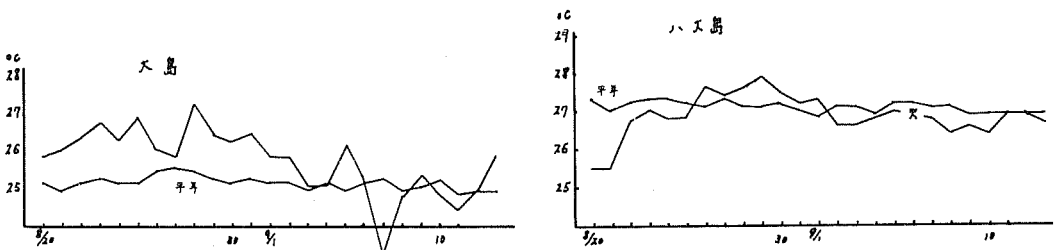


東京都 漁況
9月は台風接近による海況悪化のため、各島とも出漁船は少なく、水揚げもわずかなため詳細は不明であるが、この期間における漁獲魚種はタカバ、ムロアジ、底魚類などである。漁業者からの聞きとり調査でもとくに変わった現象はみられない。ただし大島周辺漁場におけるスルメイカは、漁場水温の上昇のためと思われるが、

8月28日以降全く見られなくなった。



第2図 伊豆諸島近海の水温図（東京都水試大島分場観測）

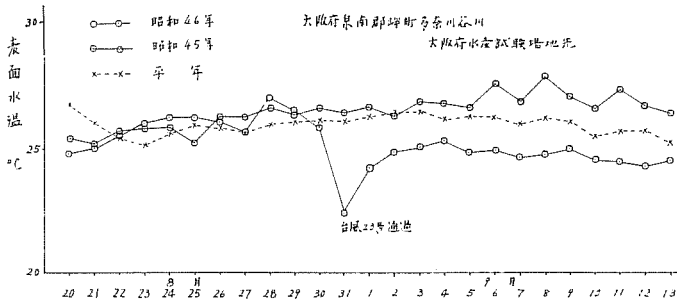


第3図 大島および八丈島における水温日変化

- 三重県 異常潮位に關連する聞取調査結果（昭和46年9月6日）
- 浜島：台風（30日夜～31日朝）前はシイラ漁場が2～3時間走り（距離20～30海里）のところだったが、通過後は30分～50分走り（距離5～10海里）のところまで近くなった。台風前はカツオ、シイラ混りであったが、台風後は殆んどシイラが主体になったことから漁場水温の上昇が推測される。
 - 尾鷲：台風前はソーダガツオが主体であったが台風後は（特に9月4日、5日）カツオ、ヨコワ、サバ、ソーダ、スマ等各種の魚類が混獲され、1日200～300Kgの水揚げ、漁場はごく沿岸部で三木湾沖10海里付近。
 - 九鬼：表面水温についてみると、8月下旬は45年より約1°C高目、その後9月6

日までは昨年より若干高目に経過している。潮流については、以前、東向流がかなりつよかったが、その後徐々に弱まり、9月6日にはよわい西向流になり、透明度もよくなった。定置網による漁獲物にはあまり変化はないが、台風後4~5日はアジの漁獲が増加(1日3000~1500Kg)したが、その後少なくなっている。

- 大阪府 (1) 泉南郡南海町西鳥取沖の定置網でマイワシ(10cm前後)が25~30Kg漁獲された。20年ぶりのことである。
- (2) 春木漁協の巾着網でカタクタイワシの漁獲が増え、魚体が大型化した。(台風前漁獲量1日1統当り1,200Kg前後(魚体6~8cm)、台風後は15,000~20,000Kg(魚体7~10cm))



第4図 大阪府水産試験場池先における水温日変化

- 和歌山県 海況：特に変化はない。潮岬の自記観測による結果でも水温その他に特に変化はない。
- 漁況：特に変化はない。紀州東岸で小アジが出現した。
- 徳島県 海況：最近分枝流が従来の紀南、芸東分枝流がなく、中央部より北上する流れが強い。また紀南では南下流のようだ。
- 漁況：台風23号で漁況は低調となったが異常潮位との関係不明。
- 高知県 海況：各地の水位は、平常よりそれぞれ室戸で40~50cm、宇佐40~50cm、宿毛34cm、清水20cm高位である。海況として特に変化はないが、"とさ"の室戸沖観測(途中中止)で室戸付近からの西向流が強くみられた。
- 漁況：特に変化なし。
- 愛媛県 漁況、海況特に異常はみとめられない。
- 宮崎県 海況：宮崎港約20cm、油津港約20cmそれぞれ平常より高かった。
- 大分県 とくになし。
- 鹿児島県 とくになし。
- 福井県 異常潮位は9月5日頃からみえている。漁況低調。